

三井物産環境基金 2014年度 活動助成 助成案件一覧

対象課題	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額 (千円)
地球環境	オイスカ	事務局長 永石 安明	フィリピン・イロイロ州「台風ハイエン」被災地域活性化のための住民主体の森林再生プロジェクト	フィリピン政府の環境・天然資源省 (DENR)、地方自治体及び台風被災地域との協力の下、耐風性の在来樹種や果樹を活用し、70ヘクタールに及ぶ被災森林の再生に取り組む。被災で苦しんでいる地元住民達に対し植林や森林管理で雇用の機会を生み出し、地域の活性化をもたらすことが期待される。さらに、貧困地域の強靭性を高め、全体的な災害リスクの軽減に貢献する。	3年	¥7,210
地球環境	国際開発センター	業務部長 渡辺 道雄	「アンコールの水環境」再生プロジェクト	カンボジアのアンコール遺跡近くにあるバイオン中学校の生徒達を対象に、現地NGOの支援の下、トンレサップ湖のゴミ拾い等の環境保全活動や、水辺の調査等の専門家による授業を通じた環境教育を実施する。水資源を保全する重要性を学んだ中学生が水環境保護クラブを結成し、下級生や小学生にそれを伝えていくとともに、活動成果を地域住民や小学校教員養成校の学生(未来の先生)達への共有を図る。それにより、地域全体で豊かな「アンコールの水環境」の再生を目指す。	3年	¥3,485
地球環境	チェルノブイリ救援・中部	理事 河田 昌東	原発事故被災地における放射能測定事業	福島第一原発事故の被災地、南相馬市及び浪江町の居住地域(約1400か所)で年間2回空間線量率を測定しマップ化、公共施設や町内会、仮設住宅等に配布する。また、「放射能測定センター・南相馬」で、住民が持参する野菜等の食品や土壌、水等の放射能を測定する。	3年	¥6,000
資源循環	飯梨川再生ネット	理事長 木村 好勝	飯梨川河川敷牧草栽培による 親水 環境保全・畜産振興・CO2削減の事業	島根県安来市を流れる飯梨川河川敷・堤防での密生植物の伐採・除去により、下流域を「空に開けた河川空間」にすることで、汽水湖中海の水質改善、安全な治水条件の確保、住民の親水権の回復、子どもの健全育成に寄与する。さらに、現在行っている再生地河川敷での牧草栽培を拡大することで、活動を安定的・発展的に持続させる。	2年	¥3,150
資源循環	薪の会	副理事長 中山 和文	間伐材を「薪に」循環型エネルギー利用拡大事業	造林、育林などの事業によって発生する間伐材を、価格・量的に適正な薪に加工するため、機械化された薪生産体制を作る。薪の加工(搬送、切断、割り、搬出)が1台で行える薪生産機を導入し、生産能力の向上と生産者の労務軽減を図る。薪は受注の伸びている陶芸用や薪ストーブ用として樹種を分け、その特性を生かして販売する。この取り組みにより、カーボンニュートラルな暮らしを人々に提案すると共に、林業の経済的な側面を支える効果も期待できる。	1年	¥3,000
生態系・共生社会	アニマルパスウェイと野生生物の会	代表理事 大竹 公一	アニマルパスウェイの全国普及活動	日本の道路総延長は約127万km、鉄道は約12万km有り、私達の生活に不可欠である。一方、国内の森林率は約68%におよび、森林を分断する道路等の延長は膨大である。その近隣に生息する樹上性動物は、分断・孤立した森林を行き来出来ず遺伝子劣化を招き地域絶滅していく可能性がある。そこで、道路上の移動経路「アニマルパスウェイ」の拡充や普及を行うと共に、利用する多種の野生動物の映像や絵本を利用し環境教育などに役立てる。	3年	¥4,800
生態系・共生社会	ビランの医療と自立を支える会	理事長 山崎 登美子	タシマン村の環境修復と持続可能な収入向上事業	希少な熱帯の生態系が残るフィリピン最南端のミンダナオ島山岳部先住民の村タシマンにおいて、1960年代の開発業者による有用材乱伐、それに続く入植者や先住民による焼き畑、山腹斜面のコーン単一栽培に起因する土壌侵食や生態系破壊等の環境及び貧困問題解決のため、入会地への在来種の植林、及び、傾斜地農法によるゴムや果樹等の樹木作物栽培を支援し、環境保全と住民の持続可能な収入向上をはかる。	3年	¥3,192

対象課題	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額(千円)
生態系・共生社会	天神崎の自然を大切に する会	業務執行理事 玉井 済夫	天神崎の自然保全 と環境教育の振興	当団体が40年間ナショナルトラスト活動を実施してきた、和歌山県田辺市天神崎の海岸林において、自然環境の維持・整備、自然観察の案内を行う。森・磯の自然を良好な状態で保ち、多くの人々にこの自然に触れてもらうことことで、環境教育を進め、自然の大切さへの理解を深める。	1年	¥950
生態系・共生社会	エバーラスティング・ネイ チャー	調査員 森元 由佳里	小笠原諸島におけるアオウミガメとの共生と繁殖地としての長期保全体制の確立	小笠原に来遊するアオウミガメを適切に資源管理するため、継続した産卵巣数調査と、ト殺個体から得られる情報を収集し、それらの結果を島民と共有する。また次代を担う人材育成のため、学校教育や普及活動を実施する。さらに、国内外での技術指導や情報発信に努める。これらを相互作用させることで、小笠原におけるアオウミガメとの共生と繁殖地としての長期保全体制を確立する。	3年	¥5,500
生態系・共生社会	自然環境復元協会	事務局スタッフ 高瀬 唯	未来の生物多様性保全を担う人材育成プロジェクト:身近な自然での実践習得型環境学習	地域の生物多様性保全活動は、人材不足により継続が困難になっており、担い手の育成が必要であると指摘されている。本活動では、首都圏の公園や里山など4か所のフィールドで、地域において環境保全活動のリーダーとして活躍できる人材の芽を育てることを目的に、子どもが実際に作業を行う環境保全活動プログラムを地域の環境保全団体と協働で実施する。16回の活動プログラムから、子どもを含めた多様な世代が参画できる活動のガイドラインを作成する。	2年	¥4,420
生態系・共生社会	地球緑化クラブ	代表理事 原 鋭次郎	モンゴルトングリ村における持続的生態モデル林造成及び環境教育と実践による人材育成事業	木材の需要が高まりによる樹木の過度の伐採により、はげ山と化したモンゴルのトングリ村では、家畜の餌となる草や野生動物の減少も起こっている。本活動では複数自生種の植栽にて生態混交林を取り戻し、森林回復モデルや環境教育の場として活用する。同時に育苗施設も造成し、人材育成と苗木の自給化により事業自立化を目指す。	3年	¥4,498
生態系・共生社会	棚田LOVER's	理事長 永菅 裕一	「棚田エコ学園農コース」による継続的な棚田保全・人材育成活動	棚田保全として、農作業体験を実施する機関は多いが、農業・化学肥料を使わずに、体験学習を通じて「気づき・知識を深め・主体的に実践し・次世代へと受け継ぐ教育者に養成する」まで行っている環境学習機関は少ない。そこで、設立したばかりの環境学習機関「棚田エコ学園農コース」の基盤を作り、生物多様性や環境、農業への理解を深め、棚田保全活動の実践及び教育・指導を継続的に行える担い手増加のシステムを構築する。	2年	¥4,800
生態系・共生社会	日本アンリ・ファープル 会	理事 中嶋 正人	昆虫を通して、都市の生態系を復活させ、ナチュラルリストを育成する活動	文京区内の公園、緑地、学校施設等を虫や鳥の往来によってひとつの循環した生態系として繋げることを目的とし、「千駄木の杜」の昆虫類の実態調査、整備や、昆虫の往来する道筋の緑地などに昆虫の好む樹木の植樹を進める。また、イベントなどを通じて環境保全の理解を深め、ボランティア等の人材ネットワーク作りや、近隣の児童・生徒たちに虫を通じた自然環境教育を行う。	3年	¥7,992
生態系・共生社会	トラ・ゾウ保護基金	理事長 戸川 久美	「イリオモテヤマネコのいるくらし授業」プログラム開発	絶滅の危機にある国の特別天然記念物イリオモテヤマネコの事故が増加している状況を鑑み、ヤマネコとの共存を願い交通事故防止活動に資する授業を、島の全小中学校で行う。この授業を通じて、児童・生徒に動物との共生に対する深い理解を促し、西表島の生態系保全に繋げる。また同手法を対象動物を変えて東京の小中学校でも展開する。	3年	¥3,000

対象課題	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	申請金額(千円)
生態系・共生社会	くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所	理事長 佐々木 豊志	映像で伝える森を活かす古くて新しい技術・馬搬	林道のない山からも木材・林地残材を馬により運び出す「馬搬」は、人と動物の共同作業による農山村でのエネルギー地産地消および循環型・持続可能な社会形成事例である。馬搬によって運び出された木材を、建材からエネルギーまで幅広く利用する取組みについて、専門家・パートナー団体の協働により調査・取材し映像に記録するとともに、シンポジウム・上映・ワークショップを開催することで、この伝統技術の普及啓発を行う。	2年	¥5,000
生態系・共生社会	Mara Conservancy	Veterinarian Asuka TAKITA	Bee-hive fence as resolution for human-elephant conflict and local community livelihoods improvement in Masai Mara, Kenya (ケニアのマサイマラにおける人間とゾウの衝突の解決および現地コミュニティの生活向上を目的とした養蜂箱フェンス)	ケニアのマサイマラ保護区の外側に位置する野生生物生息区域において、養蜂箱フェンス技術を利用してゾウによる作物被害を軽減する。過去の調査から、ゾウは生来ミツバチを嫌い、怒ったミツバチの群れに遭遇する場所を避ける傾向があることがわかっている。さらに養蜂は、近隣コミュニティの収入源にもなることから、養蜂箱フェンス設置は、マサイマラに残る最後の原生林に製炭業の悪影響が蔓延する事態を転換し、大規模な森林破壊を食い止める動機づけになる可能性がある。	3年	¥6,652
生態系・共生社会	Bridge for Fukushima	事業統括 遠藤 直哉	高校生による福島の温泉地の地熱を使った養殖実証事業	温泉による地熱と岡山理科大学で開発された好適環境水を用いた養殖技術の実用化に向けた実証実験を行う。地元の高校生が中心となり、大学・地元温泉協会・NPOとの協働の下、最適飼糧の選定、養殖品の販売に向けた生理学的研究、環境負荷の削減に関する研究を行う。その成果品を使った特産品の開発による温泉地の活性化、更にはこれらの技術が県内の温泉地や沿岸部に普及されることで産業が興り被災地復興に寄与する。	3年	¥8,000
人間と社会のつながり	SPERA森里海・時代を拓く	理事 田中 克	有明海干潟再生の根幹:市民—高校—大学の輪作り	瀕死の海、有明海再生のカギを握るのは干潟の再生にあると位置付け、その再生を人の輪づくりより進める。福岡県立伝習館高等学校を核に、市民とこれまで基礎研究を進めてきた諸大学の研究者、有明海の再生を願う漁師が連携して、干潟再生の多様な取り組みを進める。具体的には、フィールド調査と共に、有明海の生き物と環境に関する連続講義、サイエンスカフェ、有明海再生シンポジウムなどを実施し、森里海連環のモデル的取り組みを生み出す。	3年	¥6,990
人間と社会のつながり	Darma Persada University	Director of The Graduate School Kamaruddin ABDULLAH	Social development of Seriw hamlet using renewable energy (インドネシア・セリウィー集落の再生可能エネルギーを用いた生活改善)	インドネシア・ロンボク島東部の集落等を対象に、学民協働でコミュニティレベルの再生可能エネルギー活用拠点を立ち上げる。具体的には、再生可能エネルギー源に関するデータを収集し、新しい海藻加工方法を見出す。その後、海藻加工工場を建設し、太陽光発電と風力発電を組み合わせた電力供給システム、上水供給設備、ハイブリッド型ソーラー乾燥機を備えた協同組合を設立する。さらに、海藻加工品の付加価値の向上や住民への設備の操作・メンテナンスに必要なトレーニングを行う。その成果を、大学院での公開講座、ワークショップ、ホームページなどを通じて、インドネシアの他集落に広げる。	3年	¥22,501
人間と社会のつながり	仙台大学(学校法人朴沢学園)	講師 岡田 成弘	被災地の子ども達が自然とのつながりを深めるキャンプ	被災地の子どもたちに気軽に参加できる中期～長期のキャンプを企画する。大自然の中でのテント泊や野外炊事、宿泊を伴った遠征登山等、子ども達が自然の美しさ、優しさや厳しさを感じることで、震災によって遠のいてしまった子どもたちと自然とのつながりを深め、自然環境を大切する心を育む。また、県内の子どもを対象に、自然体験を提供するモデルを確立し、自然体験活動による復興を自立して行うための基盤づくりを行う。	2年	¥3,996
人間と社会のつながり	東北お遍路プロジェクト	代表理事 高橋 雄志	東北お遍路(こころのみち)プロジェクト	東日本大震災や過去の大震災で犠牲になられた方々を鎮魂するため、千年先まで語り継ぎたいエピソードを集め、“こころのみちの物語”として、国や民族や宗教を超えて発信し続けることで、広く多くの方々に“物語のある場所”を実際に辿ってもらい、東北が千年後も継承発展できる自立循環文化的な復興につながることを標榜して活動を行う。具体的には、巡礼地への標柱の設置など受け入れ態勢を整え、巡礼地と周辺地を体系的に結び、復興ツーリズムとして被災地の経済活性化を促すきっかけとする。	3年	¥3,000